

石岡市推進委員会 委員長賞

「勇気を出すということ」

国府中学校 二年 手塚 穂音（てつか ほのん）

私は去年の夏休みに東京へ母と一緒に行ききました。

とある場所を満喫したので他の駅に電車で向かい、着いて改札を抜けようとしたとき問題が起りました。前の人のSuicaカードの残り残高が足りておらずつかかってしまいました。たくさん人のいる場所なこともあり、改札口は全て列が出来ていました。前の人は後ろの人が怒っていると感じているのか、軽くパニックを起こしてどうすれば良いのかとあちこちを見てあたふたしていました。私の後ろの人たちはしびれを切らしたのか他の列に移動していました。私は助けるかどうか迷いました。なぜなら私は人を助けることをおそれていただけです。

この状況とは違いましたが、私は小学生中学年のころ困っている人を助ける人を目の当たりしたことがありました。

そのときも私は駅にいました。祖母と一緒にいてアイスを買ってくる、と言っていたので私は人の邪魔にならないところで待っていました。少し待っていると私より少し上くらいのコーンアイスを持っていた子が道の真ん中で転んでしまいました。もちろんアイスは床に飛び散ってしまいました。まわりの人はよけていくだけで助けようとはしませんでした。そんなとき中学生くらいの女の子が二人でティッシュを持って一緒にふいてあげていました。しかし、片方の子がアイスをふんでまた転び、アイスは更に飛

び散ってしまいました。助けに行こうとしたとき私の近くの人が言っていました。悪化させてどうするの、と。私はその一言でこわくなりました。私も転んで更に迷わくかけたらどうしよう、と思ってしまうました。そう思っていると祖母が帰ってきたのでアイスを食べながらその場を離れました。

私はそのとき助けでも失敗したら恥となってしまうのだらうと思ってしまいました。

そのため私は前の人を助けるか迷いました。失敗したら、間違った判断をしてしまったら、悪い予想がたくさん出来てしまい私もこわくなってしまうました。ふと前の人顔を見ると泣きそうなくらい顔が苦しそうでし

た。後ろの人がいなくなったのが自分のせいだと深く思い詰めてしまったのだと思います。そのとき私はいてもたってもいられずにその人の腕をとり、改札から離れました。運よく近くに駅員さんがいたので事情を話すと対応してくださるとのことです。私はお願いします、と一言言ってその場から離れようと思いました。すると助けた方が話しかけてくれました。その人はとても感謝してくれました。その人はあまり人と話せないし、話しかけられないそうでした。話を聞いたら、本当に感謝していました。私はうれし泣きでいっぱいになりました。と告げて立ち去りました。

私はその後母と合流して東京を満喫して家へ帰りました。その日はとてもよく眠れました。

私は人を助けたあの日から困っている人がいたら積極的に助けるように心がけています。私は気がまします。人を助けようとして失敗することは恥ではないと、人を助けずに見ぬふりをする方が恥となってしまふということ。人を助けるには勇気が必

要です。少なくとも私には必要です。今も助けるときこの判断が合っているのか、なんていつも不安になります。でも私は合っていないなくても人を助けた、という行動を誇って生きていたいと思います。誰かを助けて感謝されたときいつも私は助けて良かったと思います。あの子の中学生二人もそうだったのではないのかな、と思います。あの子の勇姿を私は忘れることはありません。

私も自分が後悔しないように困っている人を助けられたらいいな、と思いました。

このようにたくさんの方が人を助けよう、という気持ちになり、それを行動に移せば人は助け合うが成立し、人々が出す不満が少しでも減るのではないかと思います。大層なことではなくて良い、少しでも誰かの救いになることができればそれは社会を明るくするための大きな一歩となり、色々な人が少しは過ごしやすくなるのではないのでしょうか。

